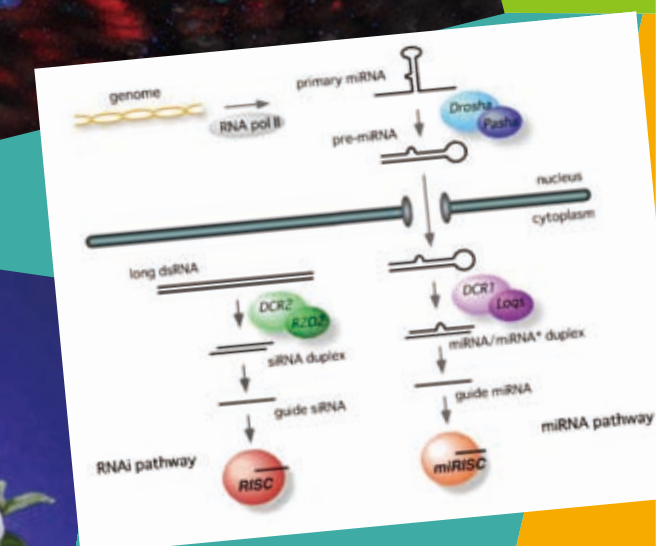
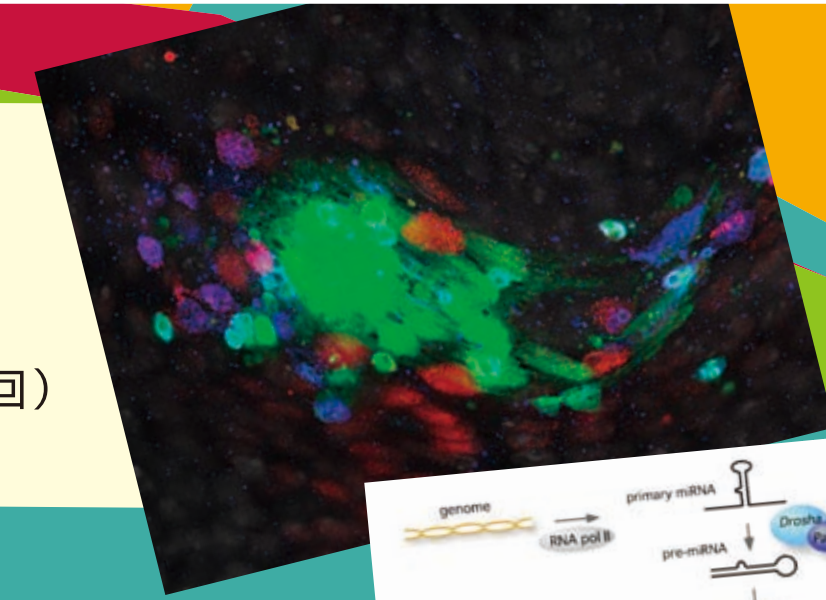


学習院大学生命科学シンポジウム

生命の秘密を 解く鍵をもとめて

第6回

学習院大学では、昨年4月より
大学院自然科学研究科「生命科学専攻」が、
本年4月より理学部「生命科学科」が
スタートしました。
これを記念して生命科学シンポジウム(第6回)
を開催いたします。

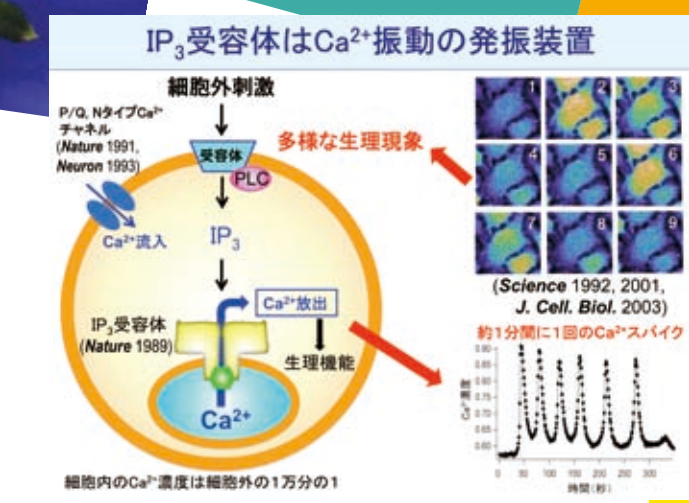


2009年10月10日(土) 14:00~17:00

学習院大学 西5号館303教室

(豊島区目白1-5-1, JR山手線目白駅徒歩3分)
聴講無料、予約不要。多くの方々の御来聴をお待ちしています。

主催：学習院大学理学部生命分子科学研究所 後援：豊島区
連絡先：学習院大学理学部生命分子科学研究所
清末知宏 (Tel: 03-3986-0221 内線3602 Fax: 03-5992-1029)
H P：学習院大学 <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/adm/adm/main.html>
理学部 <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/sci/top>



講演者



学習院大学理学部・教授 安達卓

「ハエが教えてくれる細胞死の意味と戦略」

我々の体内では1秒間に10万個もの細胞が死んでいると言われてます。せっかくだが生きる細胞が死んでしまうのは勿体ない気もしますし、逆に何か重大な訳がある気もします。この細胞死の研究が、様々な生命現象や疾病との関係から、近年盛んに行われています。本講演では、「ショウジョウバエ」という、今からちょうど100年前に研究に使われ始めた小さなハエが教えてくれる、細胞死の意味と戦略についてご紹介します。



慶應義塾大学医学部・准教授 塩見美喜子

「小分子RNAは遺伝子発現のON-OFFをどの様に制御するか？」

真核生物のゲノムには数万単位の遺伝子が存在するが、これら全ての遺伝子が各細胞において発現するのではない。それぞれの細胞ひいては組織に「特異性」を持たせるため、生命体は必要な遺伝子のみを発現するいろいろな仕組みを培ってきた。最近の研究から、20~30塩基長の小分子RNA分子群がこういった遺伝子発現の制御機構において重要な役割を担っている事が判明した。新規創薬開発への発展性も充分秘めており、今後の研究が期待される。



奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科・教授 島本功

「花を咲かせるホルモン、フロリゲン、の謎に迫る」

植物は、葉において花を咲かせる物質を作り、それが茎の先端まで移動し、花が咲く。この物質を花成ホルモン：フロリゲンと呼ぶが、その実体は70年にわたり不明であった。私たちは最近、イネのある遺伝子の作るタンパク質がフロリゲンであることを、証明した。講演では、いかにフロリゲンを発見したのか？また、今フロリゲンについて新しく分かってきたことを紹介する。



理化学研究所脳科学総合研究センター・チームリーダー 御子柴克彦

「カルシウムがひもとく生命の神秘」

カルシウムは生物にとり必須元素であり、生命現象や健康維持に必要不可欠です。私達の体の中の99%は骨や歯を作るために使われていますが、残り1%は金属イオンとして存在します。金属イオンとしてのカルシウムは適量では生命情報伝達に重要な役割を果たしますが、過剰になると細胞毒になります。従って、厳密に金属イオンとしてのカルシウム量をコントロールすることが生命維持の鍵となります。このカルシウムが織りなす様々な働きを紹介します。